

第1回 六甲山系山田川地域学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成24年10月11日(木) 14:00~16:00
2. 開催場所：山田地域福祉センター 1階 会議室
3. 出席者：

【委員】

宮田 隆夫	神戸大学名誉教授	構造地質学
香西 直樹	六甲山自然案内人の会 代表	自然(六甲全体)
鷺尾 正則	神戸市立南五葉小学校 校長	自然(郷土)
山口 剛	神戸市立君影小学校 教諭	郷土史
前中 忠博	山田川を美しくする会 代表	地域活動
神野 忠広	六甲砂防事務所事務所長	砂防・防災

【事務局】

六甲砂防事務所	綾木副所長、森東課長、杉浦係長
株式会社エイト日本技術開発	田中、吉川、松島

4. 配付資料

- 議事次第
- 第1回検討委員会資料(資料①~⑦)
- 参考資料 「みんなで語り、伝えよう! 夙川物語」「主な学習要素(山田川地域)」

5. 議 事

1. 事務所長あいさつ	・六甲砂防事務所 神野所長あいさつ
2. 委員紹介	・各委員、事務局による自己紹介(資料①)
3. 委員会設立趣旨、規約(委員長の選任)	・事務局による説明(資料②)
4. 検討委員会での検討内容・スケジュール(案)	・事務局による説明(資料③)
5. 山田川流域の特性・主な学習要素について	・事務局による説明(資料④、参考資料)
6. 学習ストーリー骨子と散策ルートのポイントについて	・事務局による説明(資料⑤)
7. 事前説明・ヒアリングにおける意見概要等について	・事務局による説明(資料⑥)
8. 意見交換	
9. 冊子における「わかりやすい表現」について	・事務局による説明(資料⑥)
10. 閉会	・六甲砂防事務所 神野所長あいさつ

<議 事>

●事務所長あいさつ

●資料①～⑥事務局説明 （宮田教授が委員長に選任される）

●意見交換

（香西委員）

- ・ P5 の植生のその他に「タニウズキ」とあるが正確には「タニウツギ」である。
- ・ P10 の 2-1-2 六甲から山田川、帝釈・丹生山系周辺の生き物たちの中に反映してほしいことがある。帝釈・丹生山系はチョウの観察に適したフィールドで、ミヤマカラスアゲハ・オナガアゲハ・スミナガシ・アオバセセリなどが見られ、これらは但馬や西播磨の山地でしか見ることができない。その他にもオオムラサキ・ヒオドシチョウをはじめ、ウラキンシジミ・ウラゴマダラシジミ・アカシジミなど数多くのシジミチョウの仲間も見ることができる。チョウの種類が多いということは、植生も豊かであるということなので、この山田の里にはまだ豊かな自然が残っているということを資料の中に反映してはどうか。

（鷲尾委員）

- ・ 六甲山はハゲ山から 100 年ほどかけて植生が豊かになったというところで、木の紹介が無い。六甲山の木を活用して山田の里のような里山を切り開いていったのではないか。
- ・ どんぐりの実やクヌギ・コナラなどの実など、「こんな実を集めたら面白い」という内容を盛り込めば子どもたちは楽しいと思う。
- ・ 動植物の紹介では、まとめて紹介しているが、貴重な、山田の地域でしか見られないような種と普通にみられる種を分けたりしてはどうか。地理や歴史に関してはボリュームがあるが自然に関して少し薄いように思える。

（山口委員）

- ・ 天狗岩について民話が残っているらしい。
- ・ ポイントを紹介するだけでなく、昔からの言伝えのようなことにも触れてみてはどうか。
- ・ 農村歌舞伎の中で、水野忠邦の改革（天保の改革）の中で、都市部で芸能関係が禁止されていた中で、山田に流れていった。山田では農村歌舞伎は根強く残っていた。
- ・ 浄瑠璃では、他地区との交流もあったようなので、裏話的な要素も盛り込んではどうか。
- ・ 神社仏閣等含めて昔から残っている建物や文化、祭りを扱うようになっているが、教材化することはなかなか困難なので、この冊子が役に立つ。

（前中委員）

- ・ 六甲山の表と裏の繋がりについて考えてみると、六甲山には東西南北様々なトンネルが通っており、六甲山は強引に活用されているというようなことも一つの学習要素になるのではないか。
- ・ 北区の特徴として茅葺屋根の民家がたくさん残っており、山田に残る茅葺屋根の民家の活用はできないか。
- ・ 山田川にはアシ・カヤなどが生えており、それを活用して山の南斜面に昔の生活の場が引き継がれている。
- ・ 各町に長い水路があるので、それをどこからどこまで流れているか歩いてみるのもひとつの要素かもしれない。
- ・ 山田川は名前を変えて加古川へ流れ込んでいるが、その名前のことや流れている各町をどのように潤しているであるとか、他の地域の役に立っているといったことも盛り込んではどうか。

（神野所長）

- ・ 山田川地域は、平成元年から六甲砂防としては山田川流路工などを宅地開発と連動して整備していった箇所であるので、そのことを触れてもよいのではないか。

(宮田委員長)

- ・地質の上からは、山田川地域は断層と断層に挟まれているため、地質に制約が加わっており、そのようなことからの特色を出せれば良いと思う。
- ・山田川には非常にきれいな段丘面が発達している。
- ・山田川地域にも様々な岩石が出てくるので、紹介したい。
- ・六甲山には花こう岩以外に古い地層が残っており、帝釈山周辺にも様々な岩石があるので触れていきたい。
- ・「六甲山地」と「六甲山系」を使い分けているが、資料の中でどのように使い分けているのかを示さないと混乱する。
- ・散策マップに関して、地獄谷大滝の周辺に水晶谷・水晶山という場所があり、もともと水晶が採れたのでそういう名前が付いたと思われるので、鉱物の名前が付いた地名などは触れるべきではないか。

(前中委員)

- ・産業としては、水晶を採るといったことは無かったと思うが、山田川の上流は花こう岩が採れ、子どもの頃はその花こう岩を割って水晶と採って遊んでいた。また、川の石を割って中から貝などの化石が採れた。

(宮田委員長)

- ・水晶が採れたということであれば、子どもに伝えることにより興味を抱くのではないか。

(鷲尾委員)

- ・君影周辺も神戸層群であり、化石が見られる。
- ・雄岡山、雌岡山の特に雄岡山では水晶が見られる。

(宮田委員長)

- ・子どもはきれいな化石や鉱物に興味を持つ。

—散策ルートについて—

(香西委員)

- ・P18の散策ルートに関して、丹生山縦走ルートを入れてはどうか。チョウの観察ルートとしても面白い。
- ・今は10月で、コウヤボウキの花が咲く頃で、アサギマダラが群れを成して飛んでいる。

(前中委員)

- ・秋はヤマモミジやクヌギなどの紅葉が大変きれいである。春にはヤマコブシの仲間が咲く。コブシがよく咲くと水不足になるという言伝えもある。
- ・13の支川があるという項目があったが、箕谷川以東の支川が入っていないので含めるべきである。また、大池に分水嶺があり、分水嶺より西は山田川となっているので、大池あたりまでを入れてほしい。

(宮田委員長)

- ・香西委員から意見のあった帝釈・丹生山系の散策ルートは小学校の遠足等で登ったりはしないのか。

(前中委員)

- ・帝釈・丹生山系にも登山道や要素はあるが、道が急であるなどの理由で行く人は少ない。ほとんどが六甲山のほうへ登る。

(宮田委員長)

- ・つくはら湖へは小学校ではよく行くのか。

(鷲尾委員)

- ・西区のほうからは行く。

(宮田委員長)

- ・もし遠足などで行くのであれば、地層や断層など自然の要素を加えたほうが良いのではないかと
思った。
- ・表六甲・裏六甲という言葉が適切か意見をもらいたい。

(神野委員)

- ・「裏」という言葉はイメージがよくないということもある。

(鷲尾委員)

- ・子どもたちに裏六甲と教えたら、はたしてそれが良いのか。「～の北側」と教えるほうが適切
ではないか。

(宮田委員長)

- ・六甲山北地域や北面などの適切な表現を使う。

●資料⑦ 事務局説明

(宮田委員長)

- ・川の名前で「志染川」と「山田川」に関して、本日の資料によると昔は山田川で、今は志染川
となっているとあるが、混乱するので説明を加えてほしい。

(前中委員)

- ・昔はみんな山田川と呼んでいたが、新しい橋を架けるときのなどは、志染川となってしまった。
いつごろからかは定かではないが今は志染川が基準である。

(神野所長)

- ・我々も山田川と呼んでいる。

(前中委員)

- ・出あい橋から呑吐ダムまでの本流部を山田川と呼んでいた。

(事務局)

- ・湊川も生田川も本当は「新」が付くが、昔から親しまれた名前や名前の付く範囲などを冊子の
最初で説明しているので、山田川についても説明を加える。

(宮田委員長)

- ・小学校ではどのように教えているのか。

(山口委員)

- ・3、4年でも地図があるので、調べておく。ただ、山田川疎水があるので、山田川ではないか。

(鷲尾委員)

- ・山田川と表記していたと思う。志染川というと三木寄りのイメージがある。

(前中委員)

- ・市の災害マップでは「志染川」となっている。

(香西委員)

- ・六甲縦走の地図にも「志染川」となっている。

(神野所長)

- ・熊野川のように通称で通るようになった例もある。

(前中委員)

- ・P5のまちの変遷で、古代～中世では貴族の荘園で、京都の方へ様々な物資を送っていた。中世
～幕末では幕府の支配下にあったとされ、明治期には武庫郡山田村となり、昭和に神戸市に編
入され昭和58年に兵庫区から北区へ分区された。山田では上下水道の整備が遅く、最近になっ

て整ってきた。交通網の整備も昭和になって急激に谷上を中心に整備されてきた。

(宮田委員長)

- ・山田錦というのは非常に有名であるが、山田川流域での米であるのか。

(前中委員)

- ・試験場で開発された後、山田に持ちこまれ育てたところ、よく育ち酒米に適していたため、よく作られていたそうである。しかし、台風や水害に弱く、また水がきれいでないため、宅地開発で水が汚れたり田んぼが減ってきたりして、だんだん作られなくなった。しかし、当時は山田錦が中心であり、川の水を利用して水車精米をし、灘の方へ送っていた。今は、淡河や三木で作られている。

(香西委員)

- ・山田錦は背が高く、また出来るのが遅いので台風の時期と重なり倒れてしまうので、最近では早稲を作る人が増えてきた。

(宮田委員長)

- ・山田錦の発祥を入れてはどうか。
- ・三田にも歌舞伎はあるが、三田との関係はあるのか。

(前中委員)

- ・あまり三田とは関係なく、山田の歌舞伎は播州歌舞伎といって播州から一座を呼んで公演を行っていた。今はこども歌舞伎や鈴蘭台近辺に歌舞伎がある。
- ・もともと遊びというようなものが少なかったため、取り入れが済んだ後に、歌舞伎などを呼んで癒しをとったのだと思う。

●閉会挨拶

(神野所長)

- ・いくつか貴重な意見を頂いたので、その意見をふまえて、次回冊子等を作っていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。